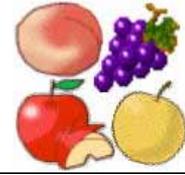


平成22年度 果樹情報 第9号

(平成22年7月23日)



福島県農林水産部研究技術室

1 気象概況 (7月1～3半旬：果樹研究所)

平均気温は、1半旬が25.2 で平年より3.7 高く、2半旬が25.4 で平年より2.9 高く、3半旬が23.0 で平年より0.2 高く経過しました。なお、この期間の降水量は233.4mmで平年の283%でした。

2 土壌の乾燥状態 (果樹研究所)

7月14日現在の土壌水分(草生栽培リンゴほ場：無かん水)は、深さ20cmでpF1.9、深さ40cmでpF1.6、深さ60cmでpF1.7と過湿傾向となっています。

3 生育概況 (7月1日現在：果樹研究所)

表 主要品種の果実肥大(暦日比較 果樹研究所7月15日調査)

果実肥大	モモ				ナシ				リンゴ			
	あかつき		ゆうぞら		幸水		豊水		つがる		ふじ	
	縦径	側径	縦径	側径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
実測値(mm)	54.1	56.1	49.2	45.3	37.3	45.9	38.7	42.1	55.6	64.4	50.7	55.7
平年比(%)	99	100	101	101	96	99	98	98	97	99	100	101

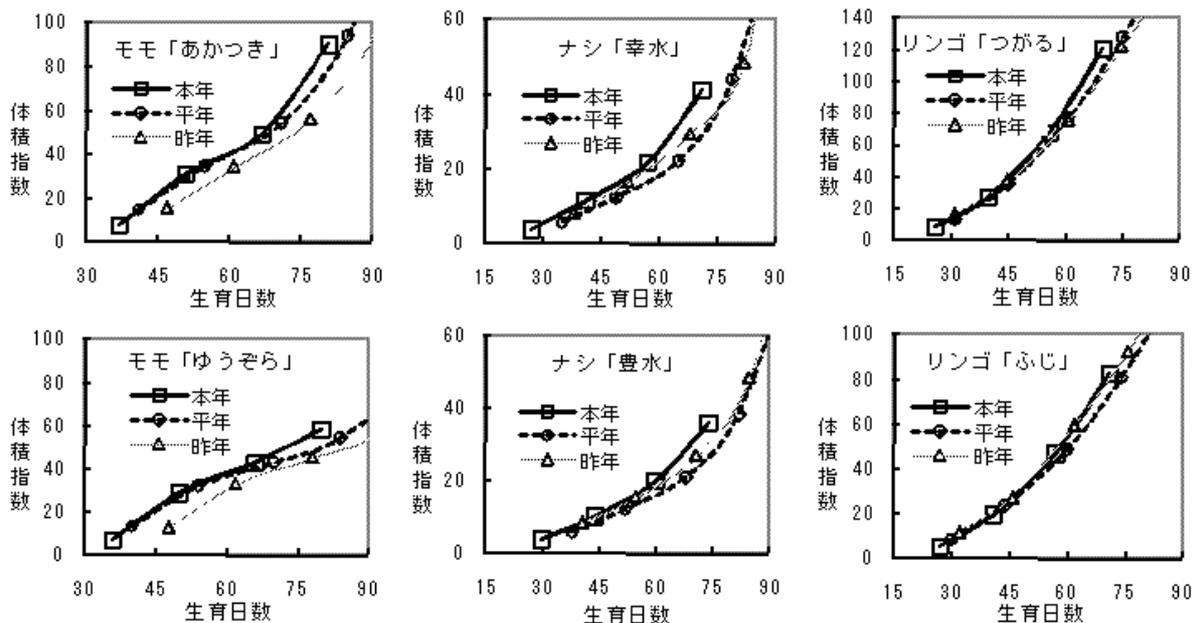


図 主要品種の果実肥大(果実の生育日数比較 果樹研究所7月15日調査)

(1) モモ

果実肥大を暦日比較と比較すると、「あかつき」は平年比99～100%、「ゆうぞら」は平年比101%とほぼ平年並みの状況です。果実の生育日数による比較では、平年よりやや大きい状況です。

「あかつき」の新梢生長(満開後80日)は、長さが平年比107%とやや長い状況ですが、新梢停止は平年並みとなっています。

早生品種「ちよひめ」の収穫始めは7月9日、収穫盛りは7月12日で平年より4日遅れで、果実の大きさは平年より大きく、糖度は平年よりやや低い状況でした。また、「日川白鳳」の収穫始めは7月15日で平年より3日早まりました。

果樹研究所によると、「あかつき」の収穫始めは8月4日頃、収穫盛りは8月7日頃で、平年並み～1日遅いと予測されています。

(2) ナシ

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は平年比96～99%、「豊水」は平年比98%と平年並み～やや小さい状況です。果実の生育日数による比較では、平年より大きい状況です。

「幸水」の新梢生長（予備枝：満開後70日）は、長さが平年比124%と長く、葉数は平年比113%と多い状況です。なお、新梢停止は平年より早い状況です。

(3) リンゴ

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は平年比97～99%、「ふじ」は平年比100～101%とほぼ平年並みでの状況です。果実の生育日数による比較では、平年よりやや大きい状況です。

4 栽培管理上の留意点

(1) 土壌の乾燥対策

ア かん水

ほ場の乾燥状態を確認し、乾燥している場合には積極的にかん水を実施しましょう。盛夏期における果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度です。1回のかん水は25～30mm(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施します。また、保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくし、かん水間隔を短くすると効果的です。

なお、モモでは収穫5～7日前からのかん水は糖度低下につながりやすいので、かん水が必要な場合は早めに実施しましょう。

イ 草刈り、マルチ

草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを実施しましょう。また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) モモ

ア 早生品種の収穫

現在、早生品種の収穫期となっていますが、収穫前の降雨が多い場合や、核割れ等により胚に障害のある果実が多い場合は、果肉の成熟が早まりやすく、軟化も早い傾向があるので収穫が遅れないように注意しましょう。

イ 中生品種の収穫前管理

「あかつき」の収穫期は平年並み～1日遅いと予想されます。「あかつき」等では、間もなく着色期に入りますが、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理が遅れないように計画的に実施しましょう。なお、「あかつき」等では、核割れの発生状況に注意するとともに、修正摘果を数回に分けて実施し、果形の良い果実を残すように心がけましょう。

(3) ナシ

ア 新梢誘引

現在、新梢誘引の適期です。腋花芽着生を促すため、新梢誘引を徹底しましょう。また、新梢誘引は樹体の受光条件改善や薬剤散布の効率化、冬季せん定後の棚付け作業の省力化が図られることから、「幸水」以外の品種でも積極的に実施しましょう。

イ 修正摘果

「幸水」は、裂果発生期に入りましたので摘果は控えましょう。裂果が終息したら修正摘果を実施し、肥大不良果、果形不良果、障害果等を丁寧に摘果しましょう。

(4) リンゴ

ア 修正摘果

現在、果実肥大や果形の差、障害果等の区別が付きやすい時期なので、小玉果、変形果、病害虫被害果、サビ果を中心に修正摘果を実施しましょう。特に結実の多かった園地では、着果過多になる傾向があるので、修正摘果を実施し適正着果に努めましょう。

イ 枝吊り・支柱立て

果実の肥大にともない枝が下垂する時期となるので、樹冠内部の日当たり改善と枝折れ防止のため、支柱立てや枝吊りを実施しましょう。

(5) ブドウ

棚面の明るさを確保するため、遅伸びしている新梢の摘心や余分な新梢の整理と誘引、副梢の整理と摘心等を実施しましょう。

摘心は、7月下旬～8月上旬頃に、伸長が停止していない新梢に対して実施し、先端の生長点を軽く摘む程度とします。また、伸長が停止しない副梢は2～3葉残して摘心しますが、伸長が停止しそうな副梢は棚面が混み合わなければ、そのまま放置します。なお、摘心後も棚下が暗い場合は、徒長的な新梢を中心に、新梢の間引きを行います。間引く本数は最小限とします。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病 害

ア リンゴ褐斑病、斑点落葉病

褐斑病、斑点落葉病ともに、十分注意が必要な状況です。散布間隔に注意して防除を実施するとともに、特に、褐斑病については、二次感染の防止に努めましょう。

イ モモ灰星病、ホモプシス腐敗病

中～晩生種では灰星病およびホモプシス腐敗病の重点防除期となるので、散布間隔に注意して防除を徹底しましょう。

ウ モモせん孔細菌病

発生が多く、注意が必要です。晩生種では7月下旬までの防除を徹底しましょう。なお、防除にあたっては、農薬の使用期間（収穫前日数）に十分注意しましょう。

エ ナシ黒星病・輪紋病

黒星病は、今後も降雨が続くと十分注意が必要な状況です。また、輪紋病の重点防除期にもあたるため、散布間隔に注意して防除を徹底しましょう。なお、黒星病の罹病部位は見つけ次第摘除し、適正に処分しましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

第4世代幼虫の防除適期は、7月6半旬～8月1半旬頃と予想されるので、この時期の防除を徹底しましょう。近隣に放任園がある場合は、特に注意しましょう。

イ モモノゴマダラノメイガ

第1世代成虫は7月5半旬頃から発生すると予想されます。被害が予想されるモモ園では、中晩生品種に対して7月下旬～8月中旬の防除を徹底しましょう。

ウ ナシヒメシンクイ

第3世代幼虫の防除適期は、7月6半旬頃と予想されます。本種は、第3世代からナシ果実への寄生が増加するため、例年果実被害が多い地域では防除を徹底しましょう。

エ リンゴコカクモンハマキ

第2世代幼虫の防除適期は、7月5半旬頃と予想されます。例年発生が多い地域では、防除を徹底しましょう。

オ コガネムシ類

例年、ドウガネブイブイの羽化盛期は7月中下旬頃となっています。モモ園での被害が予想される場合は、防除を実施しましょう。

カ ハダニ類

高温が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉当り1～2頭）の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。